

## 家庭での「非認知能力」の育て方

「非認知能力」とは、テスト等で測ることができない、「人間力」や「生きる力」のことと言われています。具体的には、「自分に関する力（内面力）」と「人と関わる力」に分けられます。

### ■自分に関する力

- 自尊心（自分の人格を尊重する気持ち）
- 自己肯定感（ありのままの自分を受け入れること）
- 自制心（感情をコントロールする力）
- 自立心（人の手を借りずに、自分でやり遂げようとする気持ち）
- 主体性（自分で考え、行動し、責任をとろうとすること）
- ★挑戦意欲（難しいことにも立ち向かおうとすること）
- ★粘り強さ（あきらめないうでやり続ける力）
- ★回復力（失敗しても立ち直り、前に進もうとする力）

「認知能力」は、一般的に「IQ」と呼ばれ、計算や読み書きなど、テストで測れる力のことです。

### ■人と関わる力

- 協調性（人と折り合いをつけながら、物事を進められること）
- 共感力（人の気持ちに寄り添える力）
- 思いやり（相手の立場に立って考えられること）
- 社交性（他の人とうまく関わることができること）
- 道徳性（人としての在り方や行為などが道徳的であること）

野市東の子どもたちの  
この3つを、さらに伸ばしたい



## 1. 家庭でできること（主に幼少期ですが、この夏休みからでも遅くないと思います。）

### (1) 夢中に遊ぶことのできる環境をつくる（スマホやゲーム機依存ではない）

遊びや夢中になること（スポーツ、習い事、趣味等）を自分で見つけ、自分なりにめいっぱい楽しみ、試行錯誤を重ねることで、主体性を身に付けていきます。この時、親は笑顔で見守り、肯定的な声かけをしてあげましょう。うなずくなど、一緒に楽しんで共感します。そうすることで、お子さんは自分が認められていると感じ、自尊心や自己肯定感が育ちます。

### (2) 自分で選んで決める経験をさせる

「〇〇はどう（何を）したい？」などとたずねます。お子さんは決定権をもつことで、自分が尊重されていると感じます。判断力が付いて、自立心が育まれるだけでなく、自尊心・自己肯定感も育ちます。何から何まで「〇〇しなさい」「〇〇でなければならない」では、自尊心は育ちません。

### (3) 子どもの成長を喜ぶ（結果のみで、価値付けするのは控えましょう）

できなかったことができだしたという成長を認め、肯定的な言葉かけをしましょう。そうすることで、自己肯定感や、次もやってみようという挑戦意欲・自立心が育ちます。

### (4) 子どもに「ありがとう」と言う状況をつくる

「ありがとう」は最高の褒め言葉です。この夏休み、お子さんに家でのお手伝いの1つを任せ、継続させます。そして、親は「いつもありがとう」と声をかけましょう。他にも「～について話してくれてありがとう」などの声かけもお願いします。

## 2. 親がしてはいけない、3つのこと

- (1) 子どもが失敗をしても先回りをしない
- (2) なんでも「やりなさい」と言わない
- (3) 友だちや兄弟姉妹と比較しない



ほとんどのご家庭が、上記のような子育てをしておられるので、本校児童の非認知能力が安定しているのだと思います。非認知能力の安定している子どもは、高学年くらいになると認知能力（見える学力）もグンと伸びてくると言われます。その傾向も本校児童には見られます。今後ともよろしくお願ひします。

※ 上記のことは、もちろん学校の先生にも留意してほしいことです。